

事務事業マネジメントシート(令和 6年度実績と令和 7年度計画)

令和 7年 7月10日更新

事務事業名		三つの木の家社会教育事業			<input type="checkbox"/> 安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 <input type="checkbox"/> 「こどもまんなか社会」の構築 <input type="checkbox"/> 産業の共生による市経済の持続的発展			
総合計画体系	政策	3	教育の健幸		所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	渡辺 良輔
	施策	10	生涯学習の推進		所属課	生涯学習課	担当者名	前田 純子
	業務分野	37	生涯学習施設(環境)の整備		所属班	生涯学習班	(内線)	1502
予算科目		会計一般	款 10	項 5	目 5	事業連番 10833	法令根拠	三つの木の家条例
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 6年度で終了 <input type="checkbox"/> 6年度から開始			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	三つの木の家の計画的な維持管理に努めることで、市民に対して学習活動に専念できる環境と、学びの場への参加機会を提供する。 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む) また、平成11年度から社会教育施設として再スタートし、学校だけでなく住民団体の活動にも使用できるようになった。 ※平成30年度より「三つの木の家社会教育事業」と「三つの木の家維持管理事業」を統合。
【業務の流れ】	①管理人対応(配置、報酬支払い、利用者受け入れ対応、予約受付) ②屋内管理(光熱水費支払い、施設管理用備品契約、機械警備契約、定期清掃、施設修繕等) ③屋外管理(樹木管理、芝生広場管理、施設修繕等、ボイラー清掃点検委託)
【主な予算費目】	報酬(指導員及び管理員)、職員手当(日直手当、賃金)需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料

(1)事務事業の振り返り・計画

①6年度事務事業の成果・実績

【目的】健全な児童・生徒の育成を図るとともに、市民の生涯学習の振興に資する。
 【内容】三つの木の家の計画的な維持管理に努めることで、市民に対して学習活動に専念できる環境と、学びの場への参加機会を提供する。
 【実績】施設の維持管理、社会教育指導、自主事業実行委員会への負担金交付を行った。10月3日～5日に通学宿泊体験研修(対象：市内小学生・参加者：24名)を実施した。「こうし」こども塾(対象：市内小学生・参加者：24名)は、7月から2月にかけて全8回実施した。子ども体験学習(対象：市内小学生)は、7月13日に草木染体験教室(対象：市内小学校1～6年生・参加者：39名)、8月10日にアロマキャンドルづくり教室(対象：市内小学校1年～中学校3年生・参加者：18名)、9月14日にボディペインティング体験(対象：市内在住2～8歳・参加者22名)を実施した。ふれあい交流事業(対象：合志市内在住・在学・在勤者)は、12月7日・14日にミニ門松づくり教室を開催し、2日間で43組139名の方にご参加いただいた。令和6年度利用実績：354団体、4653人。・宿泊体験が休日と重ならなかったため休日勤務手当の執行はなかった。代替管理員の出勤がなかったため費用弁償費の執行はなかった。
 【成果】年3回の自主事業実行委員会および市民を対象とした各種自主事業の開催や本施設の維持管理業務を通して、学習活動に専念できる環境と学びの場を提供することができた。

②7年度計画(次年度に計画している主な内容)

三つの木の家自主事業実行委員会への負担金交付、施設の維持管理(施設修繕・樹木管理・清掃・濡縁撤去工事等)、利用者受け入れ対応、各自主事業の実施

③予算の主な増減の理由

会計年度任用職員の昇給による報酬・期末勤勉手当の増

成果指標

施設利用者数
 自主事業の申込者数

(単位) データ取得方法

人
 人

(2)成果指標・総事業費の推移

成果指標	単位	4年度	5年度	6年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
ア	人	2,415	4,175	5,000	4,653	5,000	5,000	5,000	0
イ	人	218	351	350	393	350	350	350	0
ウ									
事業費	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円	136	249	287	234			
	繰入金	千円							
一般財源	千円	6,087	7,068	8,697	9,338	8,735	22,235	7,235	7,235
(A) 事業費計	千円	6,223	7,317	8,984	9,572	8,735	22,235	7,235	7,235

(3)評価の総括(成果向上の余地・事業費削減の余地)

築30年を超え、施設の老朽化が進んでおり、修繕・改修計画を立て、今後適切な施設維持を行う必要がある。

(4)今後の事業の方向性

廃止 縮小 事業のやり方改善 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)